

## 2007 年北太平洋溯河性魚類委員会の調査計画調整会議と年次会議および科学調査統計小委員会の概要

関 二 郎 (さけますセンター さけます研究部)

### はじめに

北太平洋溯河性魚類委員会 (NPAFC) は、北太平洋に生息する溯河性さけます類の母川国が、その管理と保護を行うために日本、アメリカ、カナダ、ロシア及び韓国の 5 カ国で結ばれた条約に基づいて設立されている (図 1)。NPAFC は秋に年次会議と 3 つの小委員会が開催される。科学調査統計小委員会 (CSRS) は、さけます類の調査船調査やシンポジウムなどの科学活動に関する協力を検討するため、春に調査計画調整会議 (RPCM) を開催している。また、NPAFC では、重要な研究課題について適宜シンポジウムやワークショップを開催し、その成果をテクニカルレポートとして発刊している。今年の春には、昨年 (2006 年) 4 月 26~27 日に札幌で開催されたワークショップの成果がテクニカルレポート 7 号として発刊された。

2007 年の調査計画調整会議は 4 月 25~27 日の 3 日間にわたりアメリカのホノルル市で、年次会議が 10 月 8~12 日までの 4 日間にわたってロシ

アのウラジオストック市で開催された。ここではその両会議についての概要を報告する。

### 調査計画調整会議

本会議への参加者は日本から 6 名、アメリカ 9 名、カナダ 2 名、韓国 3 名およびロシア 4 名の研究者が参加した (図 2)。また、昨年 11 月にさけますセンターから NPAFC の事務局次長に派遣された浦和茂彦博士も事務局の一員としてデビューした。

会議の開催に先だて、各国から 2007 年度の調査計画に関する 14 編の論文が提出された。25 日に全体会議が行われ、各国が 2007 年の航海計画及び国別調査計画を説明した。日本は水研センターが運航する若竹丸、北光丸と北大のおしよる丸の調査船調査の計画について説明した。その後、科学分科会、資源評価作業部会、サケマス標識部会、系群識別臨時作業部会、ベーリング海・アリューシャンサケマス国際共同調査 (BASIS) 作業部会の各小グループに分かれグループ毎の課題に

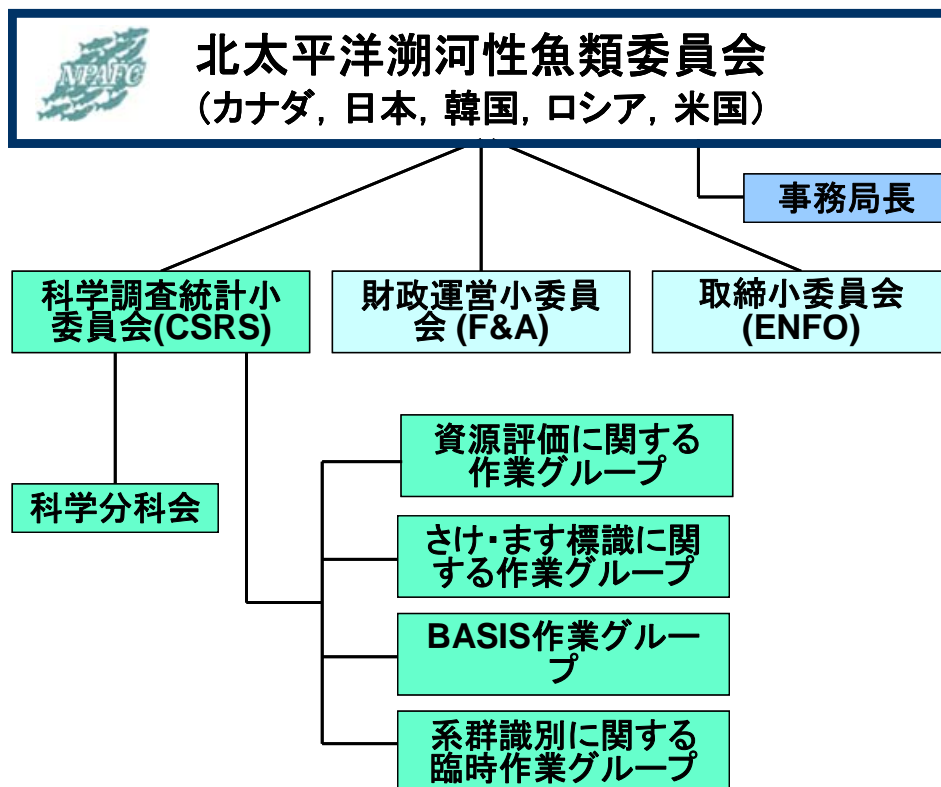


図1. 北太平洋溯河性魚類委員会 (NPAFC) の組織構成。

ついて活発な検討が行われ、その結果が全体会議に報告された。また、外部資金を得るため、カナダのムーア財団基金への応募の承認と、BASIS についてのシンポジウムを、2008 年秋にシアトルでの本会議に引き続き開催することを了承した。なお、次回の調査計画調整会議は韓国のソクチョ市で開催される。

#### 年次会議および科学調査統計小委員会

2007 年 10 月 8～12 日の 4 日間の日程でウラジオストック市において NPAFC の年次会議と科学調査統計小委員会、取り締まり小委員会及び財政運営小委員会が開催された。日本は今村代表以下 6 名と渡邊副領事が参加した（図 3）。

科学調査統計小委員会には日本 4 名、アメリカ 14 名、カナダ 7 名、ロシア 16 名、韓国 2 名、オブザーバー 1 名が参加した。事前に各国からあわせて 34 編の論文が提出され、これらの論文のうち、各国が主要な 2～3 編を紹介し、これに対する質疑応答が行われた。日本は、2007 年の北太平洋のさけ資源について（Doc. 1045）と 2006 年春に西部北太平洋で採集されたサケの起源（Doc. 1047）について紹介した。この質疑の中で、アメリカからの情報として、夏季に北極海までカラフトマスの分布域が広がっていることが報告された。また、カナダのムーア財団基金からの資金提供が決定したことが事務局から報告され、この資金の使途として、今後行うべき長期モニタリングへの対応の検討会議に使用するとカナダの提案を了承した。なお、この会議の一回目は来春に韓国で開催される調査計画調整会議にあわせて行うこととなった。

科学調査統計小委員会と平行して取り締まりと財政運営の小委員会が開催され、財政運営小委員



図2. 調査計画調整会議が開催されたホノルル市。



図3. ウラジオストックで開催されたNPAFC本会議における日本代表団。

会では日本から分担金の増額が提案され、本会議において合意した。また、2008 年から 2 年間、本小委員会の議長を日本が務めること、2009 年の年次会議の日本での開催も併せて本会議で承認された。